



全国福祉用具専門相談員協会が開発した標準様式
「福祉用具個別援助計画書」のご案内

～福祉用具を最も効果的に提供するために～

福祉用具サービスには、個別援助計画の作成は義務付けられていませんが、サービスの質の向上には作成が必要という考えが広まり、現在、全国各地で計画書を作成する取り組みが増えています。そこで、ふくせんでは、このような取り組みを支援し、関係者が質の高い計画書を作成しやすいよう、「福祉用具個別援助計画書 標準様式」を開発しました。福祉用具関係者の皆様には、ぜひこの標準様式を使って、計画書を作成していただければ幸いです。また、自治体ご担当者、ケアマネジャー、介護関係者の皆様には、ぜひこの標準様式をご覧頂き、計画書の意義をご理解頂ければ幸いです。

福祉用具個別評価用紙(基本情報)

作成日

作成者

フリガナ	性別	生年月日	年齢	要介護度	認定期間
ご本人氏名		M・T・S 年 月 日			~
住所	西暦でも元号でも記載は自由			TEL	
支援事業				担当ケアマネジャー	

利用目標、選定に必要な利用者の情報をこちら(基本情報)に記載する

■ご相談内容	相談者	ご本人との続柄	相談日
--------	-----	---------	-----

■ケアマネジャーとの相談日	ケアマネジャーとの相談記録
---------------	---------------

該当するものを☑または■に塗りつぶす

身体状況		介護環境	
身長	cm	体重	kg
寝返り	☐つかまらないでできる ☐何かにつかまればできる ☐できない		
起き上がり	☐つかまらないでできる ☐何かにつかまればできる ☐できない		
立ち上がり	☐つかまらないでできる ☐何かにつかまればできる ☐できない		
歩行	☐つかまらないでできる ☐何かにつかまればできる ☐できない		
移乗	☐自立(介助なし) ☐見守り等 ☐一部介助 ☐全介助		
座位	☐できる ☐自分の手で支えればできる ☐支えてもらえばできる ☐できない		
移動	☐自立(介助なし) ☐見守り等 ☐一部介助 ☐全介助		
自由の裁	気付いたADLの情報、例えば日によって、時間によって、できることできない等		
他のサービス利用状況			
家族構成	家族に限らず主に福祉用具を使う可能性のある人(ヘルパーも含む)		
主介護者			
利用している福祉用具	現在利用しているもの		
制限			麻痺
疾病			特記事項
障害日常生活自立度			
認知症の日常生活自立度			
特記事項	服薬状況など		

居宅サービス計画		住環境	
ご本人様及びご家族の生活に対する意向	ご本人	☐戸建(持家) ☐戸建(賃貸) ☐分譲集合住宅 ☐賃貸集合住宅(公営・民間) ☐その他()	
	ご家族	例: 段差の有無など	
総合的な援助方針	ケアプランを転記		必要に応じて記載
			特に留意点が必要な項目に☑または■に塗りつぶす

標準様式のポイント

- 1 福祉用具選定に必要な利用者情報を左半分にまとめた。右には、それらの情報に基づき福祉用具利用目標、選定理由、具体的な福祉用具の機種、利用に際しての留意点を記載するようにして、1枚の書式にした。
- 2 1枚の書式にしたのは、記載にかかる福祉用具専門相談員の事務負担を極力減らすため。なおかつ、ケアプランの目標、利用者の身体状況などはきちんと確認してもらうために、様式に盛り込んだ。

支援経過や機種変更の際は、別途の記載になる。

計画書は、利用者・家族、ケアマネジャーに渡すとともに、サービス担当者会議などでの活用を意図した。ただし、右の「利用計画書」のみ利用者・家族に渡すことも可能としている。

- 3 今後、現場で使用し、その意見をとりいれて修正していくこともある。実践の場で多くの福祉用具専門相談員に使用してもらい、信頼できる福祉用具貸与サービスの質向上を促す。

更なる改良を加え より使いやすいものにしていきます

本会では、個別援助計画の作成が、福祉用具貸与サービスの質を担保し、かつ福祉用具専門相談員の専門性を高めるためには欠かせない取り組みと判断しました。そこで、以下のとおり専門委員会を設置。標準様式の開発を行いました。今後は、更なる改良を加えてバージョンアップしていきます。また、計画作成のための研修も予定しています。

「福祉用具個別援助計画書」検討委員会名簿

●委員長

東島 弘子(本会理事、福祉ジャーナリスト、国際医療福祉大学大学院博士課程)

●委員

畔上 加代子(本会副会長、株式会社エイゼット 代表取締役)／岩元 文雄(本会理事、株式会社カクイックス ウィング 代表取締役社長)／酒井 博人(本会理事 総合メディカル株式会社 代表取締役社長)／村尾 俊明(本会理事、財団法人テクノエイド協会 常務理事)／山下一平(本会会長、株式会社ヤマシタコーポレーション 代表取締役社長)／渡邊 慎一(本会理事、社団法人日本作業療法士協会 福祉用具委員会委員長)

●オブザーバー

今村 健司／根本 順一郎／山本 隆裕(以上3名、本会会員)

福祉用具個別援助計画書 作成日 _____
作成者 _____

生活全般の解決すべき課題（ニーズ） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 福祉用具の利用に関して、目的、理由、留意点を記載した利用計画書になるもの </div>	福祉用具利用目標 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ケアプランの目標に則って、福祉用具としての利用目標を記載。 期間は適宜必要に応じて </div>
---	--

選定福祉用具(レンタル・販売)		選定理由
品目 機種（型式）	単位数	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> 利用目標を達成するために具体的な機種を選定する。 その選定理由を記載する。 </div>

レンタルサービスとして本来行われるもの

選定福祉用具搬入(予定)日	留意点
福祉用具レンタルのサービス <input type="checkbox"/> 福祉用具取扱い説明 <input type="checkbox"/> 福祉用具フィッティング（適合状況評価） <input type="checkbox"/> 福祉用具利用状況確認（訪問・電話・目標評価 等） <input type="checkbox"/> 福祉用具定期点検・メンテナンス <input type="checkbox"/> サービス担当者会議 <input type="checkbox"/> 状態変化時の機種交換（再アセスメント） <input type="checkbox"/> 入院・入所・不必要時等の福祉用具回収・搬出 <input type="checkbox"/> 相談 <input type="checkbox"/> 緊急時対応	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> ご利用者・ご家族が読んでわかるように略語は使わない ≪記載例≫ ・操作説明はご家族だけでなく、普段使われるヘルパーさんにご理解いただけるようにする ・ベッド柵は、ご本人が退院した時点で改めて検討する </div>

以上、福祉用具個別援助計画書に基づき、サービス提供を行います。

ご本人・ご家族への説明・同意 _____ 年 月 日 同意署名 _____

法人・事業所: _____ (_____) 営業所 担当者 (_____)

住所: _____ TEL: _____ FAX: _____

各法人・各事業所において本様式に加筆修正して使用する場合は、全国福祉用具専門相談員標準様式の文字は削除して使用